

ヒラスズキの種子島淡水域からの記録

酒井治己¹・佐藤光昭²・中村守純³

¹〒759-6595 山口県下関市永田本町2-7-1 水産大学校生物生産学科

²〒108-0022 東京都港区海岸3-9-15 日本エヌ・ユー・エス(株)

³〒113-0021 東京都文京区本駒込3-13-13 (1998年1月19日逝去)

(1997年11月10日受付；1998年2月2日改訂；1998年3月7日受理)

キーワード：ヒラスズキ, *Lateolabrax latus*, 潮上, 淡水域, 分布南限

魚類学雑誌
Japanese Journal of Ichthyology

© The Ichthyological Society of Japan 1998

Harumi Sakai, Mitsuaki Satou and Morizumi Nakamura. 1998. A record of the temperate bass, *Lateolabrax latus*, from a freshwater habitat of Tanegashima Island, Japan. *J. Ichthyol.*, 45(2): 107–109.

Abstract We collected two specimens of the temperate bass, *Lateolabrax latus*, from the Mukai River (10 m above the sea level, 1 km from the river mouth, chlorinity 26.9 ppm), Tanegashima Island, Kagoshima Prefecture, Japan. These specimens are the first reliable record from freshwater habitats and also the southernmost record of this species.

*Corresponding author: Harumi Sakai, Department of Applied Aquabiology, National Fisheries University, 2-7-1 Nagata-honmachi, Shimonoseki 759-6595, Japan (e-mail: sakaih@fish-u.ac.jp)

ヒラスズキ *Lateolabrax latus* は、同属のスズキ *L. japonicus* と比較して背鰭軟条数が多いこと、横列鱗数が少ないと、下顎下面に1縦列鱗があることなどの特徴により、西日本沿岸から新種として記載 (Katayama, 1957) された種である。以来、生態に不明な点が多いと指摘されつつ、スズキと異なって、河口域に侵入することはあっても淡水域には入らないとされてきた (Katayama, 1957; 片山, 1984; Kinoshita and Fujita, 1988; Fujita et al., 1988; 河村, 1989; 中坊, 1995; 横川, 1995)。唯一の例外は、中村 (1963) (およびそれを踏襲した宮地ほか, 1976) で、“南日本では僅かながら河を遡る”としているが、根拠は明らかにされていない。著者らは、種子島の淡水域 (感潮域より上流) からヒラスズキ2個体を得た。中村 (1963) の記述を裏付けるものとして報告する。

方 法

標本採集には、投網 (21節, 1200目, 目合17 mm) を用いた。標本の計測は、中村 (1963) の

方法に従った。環境水の塩素量 (塩素イオン濃度) 測定は、採集時に新しい200 cc のポリエチレン瓶に平瀬中層から採水し、なるべく空気が入らないように密封して持ち返ったものを、東京都立衛生研究所に委託して行った。

採集地点の概況

採集した河川は、鹿児島県熊毛郡中種子町向井地先、種子島の中心付近の標高約160 mの所から流程約6 kmを経て太平洋に注ぐ向井川 (Fig. 1) である。採集地点は、河口から約1 km、感潮域上限から約700 m、標高約10 m付近で、可児 (1944) による河川形態はBb型、表面流速毎秒約30–50 cm程の平瀬であった。16時30分採集時の水温は24.5°C、塩素量は26.9 ppmであった。この塩素量の値は、日本の主要河川における淡水域の平均値よりわずかに大きいものの、その範囲内にある (2–185 ppm、平均 11.2 ppm) (鈴木, 1994)。日本の主要河川の平均値に近い値を示す屋久島の淡水域を除けば、向井川の値は、南西諸島の河川の感潮

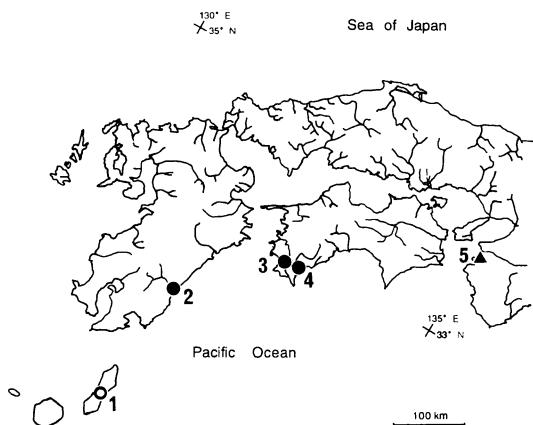


Fig. 1. Map showing the rivers where *Lateolabrax latus* specimens were collected. 1 (○), Mukai River (present specimens, NSMT-P 29234); 2 (●), Oyodo River (NSMT-P SK 2044, 2237, 2238, 3107); 3 (●), Matsuda River (NSMT-P SK 2652); 4 (●), Shimanto River (NSMT-P SK 2671); 5 (▲), Kamo River (YCM-P 10539).



Fig. 2. *Lateolabrax latus* from the Mukai River, Tanegashima Island, Japan. NSMT-P 29234-1, 105.0 mm in standard length.

域より上流において一般的に検出される値である（未発表資料）。島しょの河川では、海風が海塩をもたらすため、塩素量が若干高くなると考えられる（小泉、1971）。

標 本

1975年8月20日、酒井治己・佐藤光昭採集、2個体、NSMT-P 29234 (National Science Museum, Tokyo), 体長105.0 mm (Fig. 2) および108.7 mm. Katayama (1957) に従えば、本標本は、背鰭軟条数が14–15 (スズキは12–14), 臀鰭軟条数が9–11 (スズキは7–10), 側線下方横列鱗数が16 (スズキは18–21), 体高が体長の29.3–29.7% (スズキは23.3–28.6%) であること (Table 1), および下顎下面に明瞭な1縦列鱗があることによりヒラスズキに同定される。本種の成長が、スズキのそれ（安田・小池、1950）と大きくは異なると仮定すれば、当才魚の大きさにあたる。

標本は、平瀬をすばやく泳ぎ回っていた10–15尾の魚群に投網を打って捕獲できた2個体である。同時に、ユゴイ *Kuhlia marginata*, ポラ *Mugil cephalus cephalus*, ナガノゴリ *Tridentiger kuroiwae*, シマヨシノボリ *Rhinogobius* sp. CB, クロヨシノボリ R. sp. DA, ゴクラクハゼ *R. giurinus*, およびボウズハゼ *Sicyopterus japonicus* が採集された。これらはいずれも淡水域に生息または侵入する魚類（中村、1963）である。

備 考

この度のヒラスズキは、採集地点の標高、感潮域からの距離、塩素量、および同時に採集された魚類から判断して、淡水域からの初めての確かな記録であり、しかも、積極的に河川を溯上したものと考えられる。また、本種の分布域は、房総半島以西の本州、四国、九州（中村、1963）、静岡県から長崎県（片山、1984）、あるいは南日本沿岸（中坊、1995）などとされていたが、この度の標本は、同時に南限の記録であると考えられる。

著者のうち中村は、淡水魚類図鑑（中村、1963）作成に先立ち、日本各地から淡水魚類を収集し、1961–1962年にかけて西日本にある3河川から合計20尾のヒラスズキを得ている (Matsuura and Arai, 1995) (Fig. 1)。採集地点の塩素量の記録はないが、これらが中村 (1963) による“河を遡る”という記

Table 1. Proportional measurements and meristic counts of *Lateolabrax latus* from the Mukai River, Tanegashima Island

NSMT-P	29234-1	29234-2
Total length (mm)	130.0	tail tip broken
Standard length (mm)	105.0	108.7
In standard length (%)		
Body depth	29.7	29.3
Head length	33.5	33.2
In head length (%)		
Caudal peduncle depth	34.4	34.8
Eye diameter	23.6	23.3
Interorbital width	21.0	20.8
Snout length	29.3	29.9
Meristic counts		
Dorsal fin rays	XIII-14	XIII-15
Anal fin rays	III-9	II-11
Pectoral fin rays	16	16
Pelvic fin rays	I-5	I-5
Scales on lateral line series	73	72
Scales on transverse series	15/16	15/16

述の根拠である。そのうち、宮崎県大淀川一ツ葉入江の標本（合計5個体、NSMT-P SK 2044, 2237, 2238, 3107）は、コノシロ *Konosirus punctatus*, ボラ, スズキ, ギンガメアジ *Caranx sexfasciatus*, ヒイラギ *Leiognathus nuchalis*, クロサギ *Gerres oyena*, ゴマフエダイ *Lutjanus argentinaculatus*, シマイサキ *Rhyncopelates oxyrhynchus*, クロダイ *Acanthopagrus schlegeli*, マハゼ *Acanthogobius flavimanus*, カマキリ *Cottus kazika*とともに捕獲されており、コノシロ, ヒイラギ, クロサギなどの淡水域には侵入し難い魚類（中村, 1963）が含まれているため、汽水域に生息していたと考えられる。一方、高知県松田川の標本（14個体、NSMT-P SK 2652）は、ウゲイ *Tribolodon hakonensis*, オイカワ *Zacco platypus*, ボラおよびマハゼ、高知県四万十川支流後川合流点の標本（1個体、NSMT-P SK 2671）は、アユ *Plecoglossus altivelis altivelis*, ウゲイ, シマイサキおよびカマキリなどの第一次淡水魚または淡水域に生息、侵入する魚類（中村, 1963）とともに採集されており、淡水域に生息していた可能性が高い。そのほか、瀬能・北村（1982）も、和歌山県の加茂川感潮域から、44個体のスズキとともに、全長244.4 mm のヒラスズキ（YCM-P 10539）（Yokosuka City Museum）を記録している（Fig. 1）。

一方、Fujita et al. (1988) は、高知県四万十川河口域から全長11.2–55.1 mm のヒラスズキ仔稚魚を採集しているが、スズキの場合とは異なり、河口域はヒラスズキの主生育場ではないことを示唆している。Kinoshita and Fujita (1988) は、高知県沿岸の碎波帯から多くが全長18 mm以下のヒラスズキ仔稚魚を報告し、その後成長しても、スズキ稚魚のようには河口域などに侵入せず、アマモ場などを利用すると推測した。また彼等は、過去にアマモ場からスズキとして報告されていた稚魚の中に、ヒラスズキ稚魚が混入していた可能性も指摘している。

しかし、少なくとも10 cmに成長したヒラスズキ幼魚の一部は、河口域さらには淡水域に積極的に溯上していることが、本報告の結果から明らかである。ヒラスズキの河川に侵入する発育段階が、スズキよりも遅い幼魚期である可能性も考えられる。過去に河口域および淡水域から報告されてきたスズキ幼魚の中に、アマモ場の稚魚の例（Ki-

noshita and Fujita, 1988）と同様に、誤同定されたヒラスズキが含まれている可能性も否定できないであろう。

謝 詞

標本再査、資料検索、標本写真の便宜をはかつていただいた国立科学博物館の松浦啓一博士、京都大学の中坊徹次博士、東京水産大学の藤田清博士にお礼申し上げる。

引 用 文 献

- Fujita, S., I. Kinoshita, I. Takahashi and K. Azuma. 1988. Seasonal occurrence and food habits of larvae and juveniles of two temperate basses in the Shimanto estuary, Japan. *Japan. J. Ichthyol.*, 35: 365–370.
- 可児藤吉. 1944. 溪流性昆虫の生態. 古川晴男（編），pp. 4–91. 昆虫，上. 研究社，東京.
- Katayama, M. 1957. Four new species of serranid fishes from Japan. *Japan. J. Ichthyol.*, 6: 153–159.
- 片山正夫. 1984. ヒラスズキ. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫（編），p. 121. 日本産魚類大図鑑，解説. 東海大学出版会，東京.
- 河村功一. 1989. スズキ. 川那部浩哉・水野信彦（編），p. 485. 日本の淡水魚. 山と渓谷社，東京.
- Kinoshita, I. and S. Fujita. 1988. Larvae and juveniles of temperate bass, *Lateolabrax latus*, occurring in the surf zones of Tosa Bay, Japan. *Japan. J. Ichthyol.*, 34: 468–475.
- 小泉清明. 1971. 川と湖の生態. 共立出版，東京. 168 pp.
- Matsuura, K. and R. Arai. 1995. Catalog of the freshwater fish collection in the National Science Museum (Natural History Institute), Tokyo. Fish specimens deposited in the former Research Institute for Natural Resources (Shigenkagaku Kenkyusho), part 4. National Science Museum, Tokyo, 301 pp.
- 宮地伝三郎・川那部浩哉・水野信彦. 1976. 原色日本淡水魚類図鑑，全改訂新版. 保育社，東京. 462 pp.
- 中坊徹次. 1995. ヒラスズキ. 小西英人（編），p. 310. 新さかな大図鑑. 週間釣サンデー，大阪.
- 中村守純. 1963. 原色淡水魚類検索図鑑. 北隆館，東京. 258 pp.
- 瀬能 宏・北村利幸. 1982. 加茂川感潮域の魚類I. 南紀生物, 24: 36–42.
- 鈴木静夫. 1994. 水辺の科学. 内田老鶴圃，東京. 257 pp.
- 安田秀明・小池 篤. 1950. 日本産主要魚類の成長，第二報スズキ. 日本水産学会誌, 16: 256–258.
- 横川浩治. 1995. スズキの分類と養殖技術②. 養殖, (400): 98–101.